

[インデックスに戻る](#)

1 2. 微分と積分

1 2-1. 微分係数と導関数

1 2-1-2. 導関数とその計算

1 2-1-2-3. いろいろな関数の微分

関数を考えるとき、二つの変数 x と y をとって、 y は x の関数であるとする場合が多いが、他の変数をとることもできる。

例えば、 s が t の関数とすることもできる。これを、 $s = f(t)$ で表すとき、その導関数は記号で

$$s', f'(t), \frac{ds}{dt}$$

と書く。この導関数を求めることを、 s を t で微分するという。

(例)

s は t の関数で、関係式 $s = -5t^2 + 10t$ で表されたとする。これを t で微分すると

$$\frac{ds}{dt} = s' = (-5t^2 + 10t)' = -10t + 10$$

(注)

変数が x 、 y でない場合には、どの変数で微分したのかを明らかにするため、 $\frac{ds}{dt}$ の記号が用いられることが多い。

[インデックスに戻る](#)